



被災地で、発達障害児・者に対応されるみなさんへ(その2)

発達障害のある人やそのご家族の被災地での生活には、発達障害を知らない人には理解しにくいさまざまな困難があります。そんなとき、発達障害児・者への対応について少しでも理解している人がいると、周囲の人も含めてみんなが助かります。

● 避難所での対応

・発達障害について知識があり、「どんなふうに情報を伝えたらよいか」「どんなふうに対応したらいいのか」「発達障害について詳しくない人に、どんなふうに説明したらよいか」アドバイスや判断ができる人が必要です。このような人がいるかどうか、まずは避難所の中で確認しましょう。

◆地盤のゆるいところなど危険なところに行ってしまったたり、病人の医療機器を触ってしまう子どもがいた場合。

(対応例1) ほかに注意や関心が向く興味のある遊びや手伝いに誘う、行ってはいけないところや触ってはいけない物がはっきりとわかるように「×」などの印をあらかじめ付ける、などの工夫を実際に提案してくれる人がいると、大きな騒ぎになりません。

◆水や食料、毛布などの配給時にずっと待ってられないで、騒いでしまう子どもがいた場合。

(対応例2) 家族の代わりに子どもの相手をしたり、発達障害の特性を家族と一緒に周囲の人たちに説明していただくと、家族はたいへん助かります。

● 自宅での対応

・被災後、学校や施設が休みになって、発達障害児・者がずっと出かけられずに家庭にいななければならない場合があります。中には、家族だけでは対応が困難になっていることがあります。このようなときには、子どもへの対応のサポートが必要かどうか、家庭を訪問して確認するなどの必要もあります。基本的にはそれぞれの地域の行政の人がこの役割を担いますが、発達障害者支援の知識をもった人が同行することも、時として役に立ちます。

◆余震が続いたり、家族の不安な様子を見て、こだわり行動や不眠が続くという子どもがいた場合や、配給や買い物、役所や銀行などの手続きに行けずに困っている場合。

(対応例3) 家族の代わりに発達障害のある子どもの相手をしたり、メンタルヘルスの相談などの利用について情報提供を行って、家族の負担を軽減してあげることができます。

◆災害前は自分一人でできていたことも、家族に甘えることが増えて自分でしなくなるということもあります。

(対応例4) 子どもが自分一人でやるように励ますのか、一時期のことだから甘えることをよしとするのかといった相談を個々に聞いてあげることで、家族を安心させることができます。

● 心得ておくべきこと

・発達障害のある人の特性は一人ひとり異なります。普段の支援方法と大きく異なると、関わったことがかえって混乱を招くことがあります。本人や家族、本人の様子をよく知る人にできるだけ確認しましょう。

・実際に関わって、気になった点や気づいた点については、避難所や訪問の際の担当者に必ず情報を伝え、申し送りをしましょう。一貫したサポートを受けられることで、発達障害のある人やその家族も安心できますし、災害時のような支援が必要でなくなった後の生活の安定にもつながります。

・実際に関わって、気になった点や気づいた点については、避難所や訪問の際の担当者に必ず情報を伝え、申し送りをしましょう。一貫したサポートを受けられることで、発達障害のある人やその家族も安心できますし、災害時のような支援が必要でなくなった後の生活の安定にもつながります。



<http://www.rehab.go.jp/ddis/>

発達障害情報センター

